

新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会

平成28年8月10日(水)午前10:00～

市役所白山浦庁舎6号棟2階教育会議室1

枝並補佐	<p>ただ今より平成28年第1回、新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会を開会いたします。</p> <p>本日の進行をさせていただきます、課長補佐の枝並と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>会議公開のため、議事を録音し、会議録の作成をさせていただきますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>はじめに担当課の地域教育推進課課長、佐々木克己がごあいさつ申し上げます。</p>
佐々木課長	<p>皆さま、おはようございます。暑い日が続いていますが、暑いと言えば、リオでも、甲子園でも今熱い戦いが繰り広げられています。ずっと目をテレビに落とすと、ついつい見入ってしまう。本当に戦いの中ではベストを尽くして最後まで諦めずに頑張っている選手たちの姿、それから試合が終わった戦闘モードから解き放たれて、相手をたたえたり、それから家族の思いやり、それからチームへの思いやり、そんな言葉を述べたりしている姿を見たりすると、胸が熱くなって、またあした自分も元気に頑張れる、こんな気持ちになります。皆さん、いかがでしょうか。</p> <p>本日はお忙しい中ご出席いただきまして、大変ありがとうございます。新潟市が進める学社民の融合による教育、その中核になるのが地域と学校パートナーシップ事業であります。事業開始から数えて今年で10年目を迎えることになりました。昨年度は年間約26万人の学校支援ボランティアの方からこの事業に関わっていただくことができました。</p> <p>どの学校でもたくさんの地域の方との交流や学習、ふれあい活動が進められておりまして、まさに学校が元気、地域が元気、そして、子どもが元気になる、そういう取り組みが行われています。本当に各学校でも学社民の融合による教育が、しっかりと押し進められているということが分かります。</p> <p>さて、昨年から今年にかけて、中教審の答申が出されたり、「次世代の学校・地域創生プラン」が出されたりしまして、教育改革の大きなうねりが迫ってきています。このタイミングだからこそ、私たちは国の動向を注視しながらも、新潟市が取り組んできた10年の実績を今後どう生かすか、これを明らかにしていく必要があるのではないかと考えています。</p> <p>この新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会ですけれども、目的は、さらなる学校教育の充実を図り、地域全体で学校を支援する体制整備を図るため、関係行政機関、関係団体、学識経験者から意見を聴取し、多方面から意見交換を行うことと記されています。</p> <p>本日、次第に従いまして討議を進めていきますけれども、委員それぞれのお立場から忌憚のないご意見、ご提言を頂戴賜りますように申し添えまして、開会のあいさついたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
枝並補佐	<p>それでは会議の前に資料の確認をさせていただきます。事前に配布いたしました資料、こちらの冊子になっております、第1回パートナーシップ事業のこういった資料というのを1冊送らせていただきました。本日の配布資料なんですけれども、次第、座席表、委員の名簿、それからちょっとグラフ化になってます、標準配当時間、現在の仕事内容、仕事量から考えて適切かっていう、こちらのグラフのA4版を1枚お配りしました。不足の方はいらっしゃいませんか。</p> <p>今回の運営協議会は、今年度第1回となりますが、昨年度から替わられた委員もおりますので、委員の皆さまから自己紹介をお願いいたします。委員長の森泉委員から時計回りをお願いいたします。</p>
森泉委員長	<p>こんにちは。委員長を仰せつかっております、新潟医療福祉大学の森泉哲也と申します。任期は2年ということですので、2年目となりました。会議の円滑な進行に努めたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
井浦委員	<p>おはようございます。名簿の一番最初で井浦博男と言います。現在、小合東小学校と小合中学校の地域教育コーディネーターを仰せつかっています。コーディネーターとしては小学校は7年目です。中学は6年目でございます。かなり古くなってきておりますので、ちょっと新しい考えを吹き込まないといかんかなというふうに思って、今日は参加させてもらいました。よろしくお願いいたします。</p>
河内委員	<p>皆さん、おはようございます。横越小学校の河内一美と申します。私も2年目ということで委員を仰せつかっております。今日は図々しくも、市のさまざまな助成をいただきまして、昨年度取り組みました「わたしたちの阿賀野川物語」、そして2年目、今年度なんですけれども、さらにより多くの市民の方</p>

	<p>に発信したいということで、市内全域からの参加者を募って、9月9日にウエルカム参観日をする予定です。1校の取り組みですが、何となく皆さんにイメージを持っていただくには、少しは役に立てる資料かなと思ってお持ちしました。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいいたします。</p>
倉島委員	<p>おはようございます。松浜小学校で地域教育コーディネーターをしております倉島と申します。協議会の委員は3年目、教育コーディネーターは7年目になります。日々体力の衰えと戦いながら、子どもたちと元気に楽しくやっています。よろしくお願います。</p>
種村委員	<p>おはようございます。味方コミ協から出ています種村と申します。私は10年前ですか、パイロット校として味方小学校で3年、味方中学で2年、コーディネーターをさせてもらって、今そういうところがなかなか変わってきたんだなということを実感して、感じさせてもらっています。よろしくお願いいいたします。</p>
脇野委員	<p>新潟市教育委員会学校支援課の脇野哲郎と申します。よろしくお願いいいたします。</p>
三保委員	<p>4月から中央図書館長になってしまいました三保恵美子です。よろしくお願います。</p> <p>生涯学習センターのほうで地域と学校パートナーシップ事業の推進も、陰ながらバックアップしてきたつもりだったんですけど、図書館に行きまして、学校図書館支援センターの仕事も当然しておりますし、それはそれで学校に効果はあると思います。それを今度は公共の図書館と、それから学校の図書館とどうつないでいか、その地域とどうつないでいかというのが、私に与えられた最後の課題ではないかと思っています。どうぞよろしくお願います。</p>
藤井委員	<p>藤井武夫と言います。自治会がらみの仕事中心にやっけてまいりまして、学校関係のことは学習ボランティアとか色々なことでお手伝いさせていただいております。今、小中学校のほうで学習ボランティアのほうで結構使われておまして、小学校では組み立て方によっては毎日のようになっております。そういうふうな現場の中でやらせていただいております。よろしくお願います。</p>
田村委員	<p>おはようございます。新潟市教育委員会教職員課管理主事、田村篤です。よろしくお願います。</p>
枝並補佐	<p>ありがとうございました。名簿2番の春日委員なんですけれど、欠席のご連絡が入っておりますので、よろしくお願います。</p> <p>それでは、委員の皆さまの任期が2年となっております、委員長、副委員長は昨年度に引き続き、森泉委員に委員長、河内委員に副委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは、早速議事に入ります。この後の進行は委員長にお願いいいたします。</p>
森泉委員長	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>「(1)平成28年度の事業実施概要について」、事務局、説明をお願いいたします。</p>
緒方指導主事	<p>おはようございます。地域教育推進課指導主事の緒方猛でございます。それでは、私のほうから事業説明をさせていただきます。事前に配布させていただきました資料のページをめくっていただきまして、3ページ、資料1というところからご説明をしたいと思います。27年度第2回の運営協議会でその概要をお話ししております。重複は避けるということで、前段の部分は割愛をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、3ページの部分については割愛をさせていただきます。4ページ、これも前回のときに報告をさせていただいた数値であります。延べ事業数、延べボランティア数、先ほど課長の報告のとおりです。</p> <p>5ページ、6ページに進ませていただきます。5ページですが、事業内容、そして下になりますけれども、27年度の成果については書いてあるとおりでございます。6ページからご説明を差し上げます。6ページ、前回も確認をさせていただいたのですが、課題を5点挙げてあります。</p> <p>1点目は、環境の整備をより一層進めなければならないということ。2点目は、社会教育施設等との連携・協働をより一層進めなければならないということ。3番目が、教職員、保護者、地域住民の事業への理解を一層進めなければならないということ。4点目は、コーディネーターのスキルアップを進めていく必要がある。特に新任コーディネーターが増えてまいりましたので、そのスキルアップも図っていく必要がある。そして、5点目が、市民への周知が必要であるということで、前回もご報告申し上げました。</p> <p>これを受けまして28年度の事業がスタートしております。特に大きく変えている点は、アンダーラインが引かれている部分になります。これについてご説明をしたいと思います。6番、28年度の事業ですが、(1)事業推進に向けた方策として大きく4つの対応をしております。</p> <p>1点目は、コーディネーターの複数制の推奨と、勤務実態調査の実施によって、コーディネーターの皆さんのお仕事が適正であるのかどうか、そして今後どう進めていけばいいかということを進めていくことです。それから②持続可能な事業のための研修ということで、今年度新任コーディネーター研修</p>

	<p>を新設いたしました。また、新たにコーディネーターになって不安を持って仕事をしていたらしいコーディネーターの皆さんのために、各区よりアドバイスをするコーディネーターを配置させていただいて、相談に乗れる態勢を整えています。3点目は、市民への周知・理解ということで、従来、「地域と学校ウエルカム参観日」を16校で進めていたものを45校に拡充をいたしました。既に4月以降8月までに数カ校実施をさせていただいておりますし、先般、8月7日付の『市報にいがた』にも特集を組んでいただいております。④番、執行しやすい予算配当ということで、コーディネーターの負担を軽減し、事業を進めやすくということで配慮をさせていただいているところです。なお、今年度、複数制を推奨しておる関係がありまして、6ページ下から3行目になりますが、コーディネーターが複数いる学校には、ほんのわずかではありますが、勤務時間を追加配当させていただいております。</p> <p>では、1枚めくっていただきます。7ページになります。先ほどお話した事業費の配当金額が変更になりました。学校規模に応じた配当ということで、(3)①のところに記載をさせていただいております。</p> <p>(4)本事業にかかる研修ですが、これも先ほどお話ししました新任コーディネーター研修をスタートさせていただいております。</p> <p>最後に、6,関連事業のところですが、(1)これまで関連事業として土曜学習サポーター事業を行ってまいりました。各区1校、中学校をお願いしまして、この土曜学習サポーター事業をさせていただいたんですが、学校支援課の事業との重複等がありまして、このたび終了ということでさせていただいております。28年度、この事業は行っておりません。それから(2)「地域と学校ドリームプロジェクト支援事業」についてですが、27年度までは認定校31校であったものを45校ということで、広く認定をさせていただくという形をさせていただいております。</p> <p>以上です。</p>
森泉委員長	<p>それでは、ただ今の説明について、ご意見、質問などありましたら。ざっとご説明あったんですけども、ここをもうちょっと詳しく、そういうことでも構わないです。</p>
河内委員	<p>よろしいでしょうか。アドバイスコーディネーターのことについてご質問をしたいと思います。各区何名で、そして職務内容としては新任コーディネーターだけへのアドバイスなのか、学校単位なのか、そのアドバイス業務の中身を詳しく教えてください。</p>
緒方指導主事	<p>アドバイスコーディネーターは、新任コーディネーター31名に対して配置をさせていただいております。17名のアドバイスコーディネーターをお願いしています。各区に最低1人から3名という形で配置をさせていただいておりますが、新任コーディネーターの数に応じてお願いをしているところです。</p> <p>今ほどの河内委員からのご質問ですけれども、今回は新任コーディネーターの支援を対象としておりますので、他のコーディネーターの皆さんへの支援ということはありません。かつて、アドバイザー制度というものが当事業ではございまして、新しくパートナーシップ事業を進める学校に対して、アドバイザーというコーディネーターが入ったということなんですけれども、今回は既に全校実施をしている後のことですので、新しくコーディネーターになった方を対象にということにしております。</p> <p>この新任コーディネーター研修とアドバイスコーディネーターの制度について期待していることですが、コーディネーターの服務、勤務、職務をまず理解していただく。これが1つ目の目的になります。そして、地域教育コーディネーターとしての基本的なスキルも習得をしていただこうと思っています。このために新任コーディネーター研修では必要な講座という形で、職務の理解、あるいは先輩のコーディネーターからの実務についての話、その理念についての話などの講座を開催しております。</p> <p>アドバイスコーディネーターからは年3回まで学校訪問をするようお願いをしています。実際に働く中でコーディネーターとしての困っていること、悩みごとを聞いて、そこに適切にアドバイスができるようにということで、お願いをしているところです。</p>
河内委員	<p>大変よく分かりました。追加で恐縮なんですけど、アドバイスコーディネーターと各区の教育支援センターの担当指導主事との連携等は、どのような状況になっているのでしょうか。</p>
緒方指導主事	<p>去る4月27日に新任コーディネーター研修を行っておりますが、新任コーディネーター研修で、アドバイスコーディネーターと担当指導主事が話し合いを持っております。それぞれ状況に応じて情報交換をしております。</p> <p>特に完全に入れ替えになったコーディネーターの学校が今年2校あるんですが、そうすると、引き継ぎがないままコーディネーターを引き受けていらっしやいます。そういう学校には担当指導主事が手厚く情報交換をして、アドバイスコーディネーターに行ってくださいというようなやり方をとっております。</p>
河内委員	<p>ありがとうございます。</p>
森泉委員長	<p>他にございましたか。はい、井浦委員。</p>

井浦委員	<p>ちょっと私、前にもちょっとお願いあったかもしれませんが、学校の教職員への指導といいますが、当然、地域と学校パートナーシップ事業への指導、あるいは教育ですね。そういうのはどの程度行われているのかなということで、ただ、学校によって違うと思いますが、先生によっても違うと思いますが、やっぱり理解をしていない先生方もいらっしゃるようです。その辺をちょっとお聞きしたいと思います。</p>
森泉委員長	<p>課題3ですか。あ、課題2です。</p>
緒方指導主事	<p>では、学校等職員への周知・理解ということについては、今年度、まず校長先生方を対象とした研修を2回設けさせていただいております。4月と7月です。4月にはパートナーシップ事業を含めて、地域連携・協働と学校マネジメントについてということで、お話をさせていただきます。</p> <p>それから7月には校園長全体研修会という、市長から直接お話をする研修会が例年あるんですが、その後半にお時間をいただきまして、校長先生方からそれぞれ地域連携、パートナーシップ事業を含めた地域連携・協働についてグループワークをしていただきました。このような形で実施をしております。</p> <p>それから学校担当者への研修ということでは、5月に開催の地域と学校パートナーシップ事業研修会に、学校担当者の専門の研修をその時間帯にご用意をさせていただきました。パートナーシップ事業の説明、それから学校担当者としての職務、地域連携を進める上でのポイントなどについて、これまであまり行っていなかった部分なんですけれども、説明させていただいたということです。</p> <p>それから、教職員に対しては年層別に研修を総合教育センターというところが進めています。教員になった1年目、それから12年経験者とか、などがあるんですけれども、その初任者研修、12年経験者研修などに、学社民の融合による教育ということで、説明・指導をさせていただいているところです。</p> <p>以上です。</p>
藤井委員	<p>今のと若干関係しているんですけど、各学校で学社民の融合に関して、その辺、行政としては管理職の指導とか、講習会だ、研修会だとか、当然なさっているのはみんな分かるんですが、それを見て、現場である学校が、各学校が、校長さんはじめ、そういうことに対する姿が見えるかどうかということですね。それは具体的には校務分掌にそれが出来るかどうかということも一つの課題かなと。</p> <p>例えばコーディネーターとの窓口はいるのか。誰かがいますね。教務では教頭さんがいます。だけど、これは基本的にはもう学校構造改革みたいな話をしていけないと、こういう学社民の融合というのは推進して行って非常に難しいだろうと思うんです。</p> <p>ただ置いとけばいいだろうというような。学校の校務分掌の中に、学社民の融合担当者とか、それはネーミングはその学校のやり方で、そういうふうしておかないと、職員も分からないです。職員も分かんないし、周りも分かんないし。コーディネーターであるうちは、コーディネーターが核となってやるんだからなというふうに言われていながら、一番肝心なところとのつながりができてないと、ただ自分がやらせてくれで終わるのか、もっと突っ込んで話し合いするのか。そんなときにも、校務分掌か何かでそこどころはきちっと明確に示しておいてあることが、これを推進する上で大事なことかなと思いますけど。</p>
森泉委員長	<p>今、藤井委員からすごく貴重な示唆があったと思うんです。いかがでしょう。ただこれは次の議題の、今後の取り組みのところとも関係してくるんじゃないかなと思います。そうすると、その辺りで意見交換をしたいと考えておりますので、そこであらためて取り上げさせてもらおうという感じでいかがでしょうか。よろしいですか。</p>
藤井委員	<p>はい。私もその辺に入るなと思ったんですけど、今の井浦さんのお話の中でちょっと触れさせてもらったんです。</p>
森泉委員長	<p>じゃ、そのようにしていきたいと思います。他どうでしょうか。質問とか意見。</p>
三保委員	<p>すいません。よろしいでしょうか。</p> <p>公民館とか、それから図書館との連携もだいぶ進んでいるみたいですけど、具体的にどんなふうな連携が進んでいるとか、どういうことが足りないとか、どういうところを残してらっしゃるか、つかんでらっしゃるんでしょうか。それまとめたものがあれば教えていただければと思いますけど。</p>
緒方指導主事	<p>今回はご用意できなかったんですけども、先般の会議の際に、特に学社民融合支援主事との連携についてご報告を差し上げたかと思っております。昨年度から研修会への学社民融合支援主事の参加をお願いいたしています。</p> <p>それから昨年度の3回目の研修では、公民館職員とコーディネーターと合わせまして、パネルディスカッション形式でそれぞれの実践について皆さんに知っていただくという機会を用意しております。</p> <p>それから、昨年度も区の研修、区研修と申ししていますが、公民館単位での研修を企画している区も</p>

	<p>ございます。そうすると公民館職員の皆さんとその管轄下の学校の地域教育コーディネーターの情報というような取り組みを、していただいているということになります。</p> <p>それから今年度は同じくパートナーシップ事業研修会に、各図書館の職員の皆さんにご案内を出して参加をしていただいています。パートナーシップ事業を知っていただくと、まずそこからスタートをしていただいで、これから職域に戻ったときに、交流のスタートになっていただきたいというふうに考えたわけです。</p>
三保委員	はい。ありがとうございました。
森泉委員長	<p>他はいかがでしょうか。</p> <p>では一旦ここでくります。またございましたら、いつでもお問い合わせいただければと思います。</p> <p>では続きまして、(2)の「今後の取組について」、事務局に説明をお願いいたします。</p>
緒方指導主事	<p>では、お願いいたします。</p> <p>先ほどご説明した資料をめぐっていただきまして、9ページと10ページになります。先ほど森泉委員長からもいただいたように、今年度の取り組みも受けまして、今後、この事業をどのように進めていけばよいかということで、委員の皆さまからご意見をいただきたいというふうに思っております。9ページ、10ページで、大きく2つの課題、検討課題があるかなというふうに考えております。</p> <p>9ページです。1つ目は持続可能な事業システムの構築ということです。事業開始10年目を迎え、事業運営に関してさまざまな課題が浮き彫りとなっております。これからの事業運営をどう進めていくかということで、ここ4点について検討、ご意見をいただきたいところです。</p> <p>1-1というところですが、先ほど課長のあいさつにもありましたが、中央教育審議会答申、「次世代の学校・地域」創生プランが出されています。国からはそこに書いてありますように、地域とともにある学校、地域を核とした地域づくり、社会総がかりでの教育、などの提言がなされています。ある意味、新潟市は独自の路線を進みつつも、これに沿った形、あるいは先取りした形で進めているところではあります。市として今後どうしていけばいいかというご意見いただければと思っています。</p> <p>1-2のところですが、コーディネーターのサービス・勤務と研修ということです。コーディネーターの皆さんのサービス・勤務については、コーディネーターの皆さんからよく理解していただくということとともに、その役割を再考する時期なのかなというふうにも思っております。前回の運営協議会でも、コーディネーターの役割についてご意見をいただいていたところです。再度これについてご意見をいただければと思います。</p> <p>1-3、コーディネーターの多忙化の解消です。コーディネーターへの期待と同時に、現行ニーズがたまって、コーディネーターの皆さんのお仕事が多様化、そして量的にも増えてきているところです。</p> <p>本日用意した表裏のグラフ、表題が書いてなくて大変恐縮ですが、先般、提出をいただきました、地域教育コーディネーターの勤務実態調査に付けさせていただいたアンケートです。速報値で、全ての学校がまだ出ているわけではありません。勤務実態調査に書かせていただいた設問に対してです。コーディネーターの皆さんの現在の状況というのが、数字からもお分かりいただけるのかなというふうに思っています。今後、このことについても、ご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>それから、先ほど藤井委員からもご質問いただいて、ご意見いただきました、校内体制の確立です。この校内体制についてもぜひご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>現在、28年度の取り組みと書いてあるところ、行っているところではありますが、依然十分でないところ、改善が必要などころがありますので、ご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>併せまして、10ページのほうもご説明をします。市民への周知、広報活動です。まだまだ市民の皆さんの理解が十分でないというご意見を、例えば中学校ミーティング等の会合でもいただくところです。</p> <p>これについて、2-1、2-2、2-3と、3つの課題を入れさせていただいています。1つ目は学校からの情報発信をどう改善すればよいか、2つ目がネットワークを利用した広報活動も必要なのではないかな。あるいは3つ目は、マスメディア、マスコミとの連携が必要になってくるのではないかなというようなことを、私たちは考えております。これについてもご意見をいただきたいところです。</p> <p>以上、よろしく願いいたします。</p>
森泉委員長	<p>議事では、今ここでも質問、意見お願ひしたいなと思っているんですけど、時間もありますので、もうご意見も出ていますし、今までのことと今後のことが出そろいましたので特に分けることはいたしません。質問やご意見など、その中での意見交換というのをここからしていきたいなと思っております。ではまず、これちょっと疑問だというような辺りがありましたら、その辺りからお寄せいただければと思います。</p>

種村委員	いいですか。私、南区でコーディネーターの集まり行って、寄せてもらってるんです。結構南区は小学校のほうは特に小規模校が結構多いわけですよ。それによって、小規模校の小・中・大ですか。そういう時数を出されると、とても仕事がやりにくいという声を聞いてきたんです。それは校長の裁量で時数も増やせるということになっておりますけど、どうせならやることはみんな、どこの学校も同じ、大にしろ、小にしろ、そういう学校は同じことなんで、一律にしてもらってそれで足りない分は校長の裁量で時間数を増やしてもらえないかなと今。なるべくだったら、小・中・大というか、そういうふうに分けないで、一律にしてほしいという意見が聞こえてきました。
森泉委員長	なるほど。現場の声ですね。事務局、その辺りどう、何と答えます？
緒方指導主事	事務局がお話しする前に、お二人のコーディネーターの皆さん、どんなでしょうか。
森泉委員長	コーディネーターの視点、どうでしょう。倉島さん、すいません。
倉島委員	どうでしょう。
森泉委員長	じゃ、井浦委員さん。
井浦委員	<p>そうですね、私のところは、こういうことで、新潟市の予算があることなので致し方ないのかなという印象は受けますが、今年、時間数足りないというのは、特に小学校は足りないですね。3月になったらほとんどボランティアでやってるという状況です。小学校のほうは時間が足りないということで、小さな学校なんですけども、80人ぐらいしか子どもたちいませんが、それでもやっぱり足りないです。例年3月になると大体ボランティアでねということで学校行っていますけど。ですから、予算があればもう少し出してほしいというのはあります。</p> <p>中学校のほうは逆にそんなにまた我々のところは、そんなにいっぱいやってる量じゃないんです。コーディネーターが関与するのはそんなにいっぱいないので、時間がちょっと余り気味ということで、これは余ったものを有効活用する形で、地域カレンダーを作ったりしてますけれども、使ってます。中学はどちらかというとあまり時間の必要がない。</p> <p>それで、時間が足りないということで、私たちのところは2人、複数制のコーディネーターがいます。小が2人、中3人います。同じようなことを2人が組んで同じことやるということが非常に無駄なので、今は複数制をうまく利用して、役割分担といいますか、この分野は私が得意と。その分野はあなたが得意ということで、やり方を変えてきています。同じことを2人が一緒にいてやるというようなことがないようにしています。</p> <p>当然一緒に情報交換することもありますから、一緒にいるということありますが、できるだけ分担をしながら時間を有効活用するみたいな形で動いています。ですから一部は同じ大きな学校、小さな学校同じにすべきというような意見ございますが、私のところは与えられた範囲内でやるということなので、うまく運営している。足りないところはボランティアでやらざるを得ないので、それも含めてやると。でも時間を有効に活用するというのは、心掛けてやっています。</p>
森泉委員長	倉島さん。
倉島委員	<p>私は北区で、北区もやっぱり小規模校、間もなく統合のような学校もありますし、私のところはたまたま一番大規模校、ぎりぎり大規模に引っかかって20学級のところです。仕事内容は確かに小規模校も大規模校も同じようなことをしているんですけど、大規模校はやっぱり人数が多い分、複数回、同じ活動にしても小規模校なら1回で済むところ、大規模校は3回とか4回とか、回数でやっぱり多くなるのにどうしても時間がかかってしまうので、大規模校の立場としたらちょっとやっぱり大目にいただいているほうがありがたいです。正直、同じ町探検に行きます、回ってる方はお見えになりますといっても、1クラス1回で済むか、3クラス3回でやるかってなると、やっぱり単純に3倍になるっていう形ですし、あと複数で、うちも複数です。2人でやってますけれども、うちは明確な役割分担というよりは、2人が必ず情報を共有して一緒にやるっていうスタイルをとってますので、どちらかがボランティアになって、今日私が勤務、あなたがボランティア、今日は2人ともボランティアといろいろなやり方をお互いよく相談してやるようにしています。</p> <p>人によって対応が変わってはいけないと思いますので、私に言っても、もう1人の方にも言っても、同じ答えが返るように、同じ対応ができるようにということをお心掛けて、2人で必ず情報は共有して、一緒に活動、なるべく一緒に動くっていうのを基本にずっと6年やってますので、その中で私はいろいろ教えていただきながら、地域の方もお知り合いになったり、お互いにそれぞれ専門分野はありますけれども、2人ともコーディネーターよねっていうことは地域にしっかり浸透するように、どっちに言っても必ず学校に伝わるとか、同じ対応をするっていうことのほうにちょっと力を使ってるような活動だと思います。</p> <p>あとは時間、確かに小規模な方は人数少なくてもやること、1回でも手間は一緒なので、ちょっと少</p>

	<p>ないのかなっていうふうには思います。</p> <p>中学校のことはよく分からないんですけども、どうなのでしょうね。やっぱり中学校のほうが若干余裕があるように見えます。ただ、中学のコーディネーターを私、やったことがないから、人のことまではよく分からないけど、こっちはもうほんとに毎日いっぱい。中学校さんはちょっと余裕あるような感じだなんていう印象は受けます。ただ、中学の方もいろいろやっぱり中学校なりにやってらっしゃるので、全体的に時間が増えるほうありがたいという、全部。</p>
森泉委員長	そういうこと。
倉島委員	はい。総じて時間が足りないのは事実です。私もよく学校に行って、「今日、私に会わなかったことにしてください」って訴えています。「倉島はいません」って。
森泉委員長	現場の声の中にキーワードがいくつかあって、それを踏まえなきゃいかんのだろうなと思いつつも、井浦委員も言っておられましたけど、予算枠がある。それを公平に使っていくにはというところで、事務局も苦勞されているんだろうなというふうには察しますけども。こういう意見があるということは、毎回でしょうけども、事務局も踏まえてこれをやっていただけたことが大事です。はい。
緒方指導主事	<p>大変ありがとうございました。今回、ご用意したアンケートの中にも実は仕事内容、仕事量は適切かということや、コーディネーターの仕事量が増えているかどうかということについても調査をさせていただいております。</p> <p>また、今回は速報ということでお出しできなかったんですけども、実際の勤務時間どれくらいあるかということも調査をさせていただいています。種村委員からのご指摘についても、こういう調査を基にして本当に適正なのかどうかということをもた検討して、また、今後改善をしていくのか、このままでよいのかということは考えていきたいと思っております。</p> <p>当然やはり学校規模や校種によってそれぞれの思い、お考えがありますので、100%皆さんのご意見をお受けできるかどうか分からないんですけども、でも事業として今後継続していくことを考えると、納得していただけるような改善をしていかなきゃいけないなと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p>
藤井委員	<p>いいですか。</p> <p>おっしゃることそのとおりでと思いますが、ちょっと考えて配慮していただけるとコーディネーターの人は喜ぶんじゃないかなとか、それはコーディネーターは一応核としての仲立ちするわけですから、地域とか公民館とか学校をね。その仲立ちするとき、ただ紙切れ一枚を配ってお願いしますというだけのレベルで行くのか、それともちゃんとそれを該当する人、あの人に頼もうと、あの人をお願いしようというとき、電話はもちろんするんだけど、実際行ってお願ひするとか、そういうふう具体的に動いていくというコーディネーターもいるわけ。だから、紙切れで終わっている人とか、そうなったとき反応は全然違うでしょ、紙切れと直接行ったとき。この違いが学校とか地域によって成果が変わってくる、すごく大きな問題だと思うんです。</p> <p>だから、コーディネーターの人は大事にしてほしいと私は思うし、さっきお互い話してたからいっぱい付けてやったほうがいだろうし、それから、勤務時間も、それぞれ週に何回、何時間というのがありますよね。そうすると、地域の人が分からない人がいるんです。コーディネーターって何だとか、それから「あんた、うちの自治会の人間だろう。自治会でこういうことやるから」とか、「こういうのやるから、手伝いに来なさい」と。そうすると、コーディネーターの仕事が今日あったのになんかというふうなことで、理解されてない部分があるんだよね。それで悩む人がいるわけです。だから、その辺のことも考えてもらったときに、どういうやり方がいいのかなと思って。</p> <p>ただ、コーディネーター本人が、こうこういうふうにして市からお願いされてやっていると、それも明確にそういうことを言うていくというのは絶対必要だし、それから、やっぱりいいものをつくり上げていくのは、紙切れだけじゃ駄目だから、人なんか集まんないし、やっぱり行くなり、電話するなりして、フェイス・トゥ・フェイスじゃないけど、そうしないといいものが出てこないと思う。</p> <p>それをやってるところもあるし、やらないところもあるし。できたらやってもらえるといいなと思うけども、だけど、それはすごいエネルギーだからね。たかが1回電話しなさい言うて。それで、ねえ、倉島さん。</p>
倉島委員	ありがとうございます。そのとおりです。何度も伺って、仲良くなって、冗談言えるぐらいになると、もうすごいやっぱり最後の成果は大きく違う、全然違うと思っております。
森泉委員長	その辺りというのはコーディネーターの研修会での意見交換で、実践例とか何かでの報告、報告とか紹介とかってあるんですか。
緒方指導主事	まず、新任コーディネーターについては、先輩のコーディネーターのそのお話がありました。藤井



	<p>委員のお話のとおりで、名刺を作るんじゃないで、自分がそのプリントや案内を届けに行くんですよってところが大事なんだという話を、経験豊富なコーディネーターのほうから話をさせていただいてあります。</p> <p>それから、たまたまですが、先々週ですか、西蒲区の区の研修があったときには、やはり顔を知ってもらって、それが一番大事なことで、募集の案内を出してるだけじゃ駄目だっていう話題が、やっぱりコーディネーター同士の研修や情報交換の中で出てきています。本当にコーディネーターの皆さん、やっぱり熱意のある方なので、よりよく知ってもらうためにはどうすればいいかという情報交換は、非常によくしていただいでいて、それが広がっていくのかなと思っています。必ずしも全員ということではないのかもしれないんですけども、それが大事だということは、これからも私たちも含めて伝え続ける必要があるなと思っています。</p>
森泉委員長	いいご意見が。
佐々木課長	<p>今お話を聞いていくと、ほんと限られた時間の中で、時間を有効に使いながらお仕事をさせていただいているという様子はよく分かりました。同じことをしない。無駄な時間を使わない。そうしながらも、お話のように、かけるところには時間をかけなければならないというお話だったかというふうに思います。</p> <p>確かにコーディネーターの一つの仕事として、ネットワークづくりというものがあります。それはやっぱり温かみのあるネットワークにするためには、本当に顔を合わせてそういう関係をつくっていくということが大事であるということは、先輩のコーディネーターからもお話を聞いているところであります。常にそれはやっていかなければならないわという、ほんとと今度そうなる膨大な時間がたってしまうので、そこについても優先順位とか軽重をつけながらやっていただくことが、今一番大事なことなのかなというふうに思います。</p> <p>今これから考えていかなきゃならないのは、ますますこの仕事というのが今後も増えていく見通しなのかどうか。各学校の事業数を見ると年々やっぱり増えていっているんです。その中で、例えばスクラップできるものとか、そういうものの検討はまず現場の中でされているのかどうか。それを押してまでもさらにやっぱり有効な、こことこを目指していかなきゃならない事業があって、そのために今後ますます増えていくことが見込まれるのか。その辺りちょっとお話をさせていただけると、また今後役に立たないかなと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
森泉委員長	いかがでしょうか。今、課長から提案がありましたけども。そういう状況の情報どうですか。
藤井委員	<p>いいですか。今度の見通しなんていうのを、こうしたらいい、ああしたらいいということはなかなかなくて、そういうことはできない。ただ、はっきりしているのは、さっきも言われたように、コーディネーター、それから学校側の職員の担当者、そのところがまずきちんとなっているということと同時に、学校の職員がこのパートナーシップ事業というものをどう理解しているかということが、すごく、特に管理職なんか、理解が必要だ。</p> <p>わが校の、うちの学校の子どもたちがこういうことしたいって、そのためにはこういう人材が欲しいということであると増えるだろうし、いや、ちょっとしだけやっておきゃそれでいいわと言えども何もなし、教科書が学校とすればそれはメインだから、教科書から離れられないけど、だけど、そういうプラスアルファ的な、あるいは違う広がり、同じ授業をやるのに、例えば稲作やるにしても、あの稲作だって、教科で言えば理科と社会が今でなるんですよね。そういうことが認識されている中で稲作をやっているのかどうか。</p> <p>こういうふうなこととか、きちんとして分かった中で、理解された中で進められるとなれば、仕事量が増えるとか、増えないとか、そういうのが案外とはっきりしてくるか分からないですね。</p>
森泉委員長	本質のあらわれであるということもきちんとして認識してる。その上において、増えるか減るかというのは出てくるわけですね。なるほど。
井浦委員	<p>ちょっと今、私も今ほんとに一緒にだというのは、ちょっと今お話し聞きましたけども、恐らくこれから、随分後のほうにいろいろ資料ありましたけども、今グラフがありましたけども、先生方が、学校の先生方、何でもかんでもやると、裏のほうの中教審のあれなんかを見ると、すごくいっぱいやらないと駄目なことが増えてきて、とてもやり切れないなと。先生、とてもやり切れないなというのが印象です。それを我々コーディネーターがお手伝いする、いわゆる担うということです。ただ、時間数が限られているので、何でもかんでもできない。</p> <p>1つの例で、今年例えば、稲作の話出ましたので、稲作もわれわれの学校でもやっていますが、枠押しっていうのがあるんですね。ご存知かもしれないけど、こう、稲をここに、苗を植えるために枠作るんですね。あれを去年までたまたま教務主任の先生が何年もやっておられますので、自分でやる、枠押しをやってくれた。その人が退職されたので、枠押しする人がいなくなったんですね。それで、いろ</p>



いろんな人に声を掛けたんですけれども、昔の人は使ってなくて、できる人が中にいないんです。探さなきゃ駄目なわけです。かなり時間を要しましたけれども、結果的には見つかって、ほんで、5〜76歳の人を呼んで来て、それも3人協力してくれました。もうそれは地域に非常にうるさい人で、けむたい人だったんですけど、お願いに行ってきたら協力してくれると言った。

当日はほんとに素晴らしい体験できて、ちゃんと水糸を持ってきて、普通だと端からぐるっと田んぼに杵押しをしてくんです。ですけども、本当のプロになりますと、昔やってた人はそうじゃなくて、真ん中にまず水糸を引いて、そこを中心にしてという、こういうようなことすごいなと。もうその代わり、真っすぐな杵ができたんです。そういうのを探そうとすると当然時間かかるんですね。

ですけど私は思うんですが、それコーディネーターに全部押し付けるの駄目だなということで、そんなことを分かる人なかなかいませんから、毎日、私、地域の茶の間というのを学校で取り組みをしますので、大勢の人に学校に来てもらうようにすれば、そこで情報を得られる。皆さん、ボランティアで来てくれますから、その中でこういう得意な人いないか、知ってる人いないかと言ったときに、じゃあ、あそこ誰それに頼めばいいんじゃないかと。今回はそういうことだったんですけども。そういうようなことで、連携ができてくると、案外と早く目的を到達できるというようなことになるんです。

だから、いろいろやりようはある。工夫はしようはある。全部コーディネーターが何でもかんでもコーディネートするんじゃない。そこに集まった学校に来てくれた地域の人が、コーディネーターの役割をしてもらう場面も出てくると。そういうふうな連携をしていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

ちょっと1-2のところに関係あるんですけども、コーディネーターの服務、勤務の研修会ありますが、私、長年やってきて、コーディネーターの資質というのが必要だなというふうに思います。多くのコーディネーター、私もいろいろお話しさせてもらっていますが、だいぶ最近パソコンも操作できないとうまくいかない。文章も書けないと駄目だということで、コーディネーターの資質というのはかなり重要になってくると思うんです。こういった理由は必要だと思います。

あともう1つ非常に重要なのは、コーディネーターというのは今、藤井さんが言われたように、要するに顔と顔を合わせてコーディネートしないとまくいかないことが多いんですね。文章だけじゃ駄目なんです。それでコーディネーターとして一番大事なことは何かというと、私は要するに信頼される人でないと駄目なんです。ですから、コーディネーターも誰でもいいというわけじゃなくて、うまくやるには信頼される人を選ぶべきだ。あるいは信頼されるような人間性をつくっていく教育が、コーディネーターにも必要だというふうに思います。

ですからその辺もこれからまだまだ私たちも勉強しないと駄目だし、コーディネーターも勉強しないと駄目だ。ただテクニックだけ覚えるんじゃなくて、そういう人間性とか、そういうのを磨いていかないと駄目なんじゃないかなというふうなことを感じてます。

いわゆるもう1つ、じゃ、そういうことをうまくやるにはどうしたらいいんだろうかといういろいろ考えますが、これは私の経験では校長だと思います。もうそういうこと全て、コーディネーターというのはそういうことを運営していくというのは、校長の考え一つだと思うんです。校長先生がどういうふうなやり方をしていくかということで決まってくる。

これ、いいかどうか分かりませんが、昨年までうちの学校では、玄関の鍵をかけなかったんですね。なぜなら地域の人が、私、コーディネーター室に黄色いハンカチじゃないですけども、黄色い紙を置いておくんです。そうすると、コーディネーターがいるなということで地域の人が入ってくるんです。自由に出入りできたんですね。

ただ、やっぱりいろいろ困った問題もあって、今年来られた校長先生が今度鍵をかけるようになったんです。ですから、地域の人が来ても鍵がかかってます。当然ピンポンと鳴らすと誰か出て対応してくれるんですね。でも、非常に難しくなったなということで、地域の人でもやはりちょっとそれはどうかというのもありまして、今のところ鍵かける、防犯上の問題があって、それが最優先なんで致し方ないんですが、その辺ちょっとあります。

それなりにじゃなくて、やはり校長先生がどう考えているのか。地域と連携をどうするかというのは、一番重要な鍵を握ってくると。それによってコーディネーターがうまく運用できるかどうか決まってくるし、地域によって、てなことになってくると思うんですね。

ですから、ちょっと結論は出ませんが、とにかくそんなことをちょっと考えて、やりようはいろいろあるんじゃないかなというふうに思います。

森泉委員長

あえて整理しませんが、すごくいろんな人にご意見聞いていきたいんですけども、ちょっと時間がかかり迫ってきておまして、どうでしょうか、お一人ずつ、一言ずつ、また言っていたら、後は

	事務局にまとめていただくと。河内先生。
河内委員	<p>じゃあ、コーディネーターの皆さんに対して、わが校も当然そうですし、多くの、全ての学校が大変感謝をしていることはもう間違いなくて、コーディネーターさんがいない学校づくりは考えられないというふうに、多くの校長の声を聞いております。</p> <p>ただ、コーディネーターの勤務は限られておりますので、やはり図書館司書と同様にやっぱりある程度できる範囲でいいですよということを、管理職の立場で伝えていくことは必要だろうなというふうに思っています。</p> <p>また、先ほどの藤井先生の冒頭のご意見にもありましたし、ここにも書いてあるとおり、地域・学校協働担当職員ででしょうか。これについては、やはりもう少し、コーディネーターに全て任せるのではなく、そういう担当職員を校務分掌にきちんと明示し、部署を明示していくことが、これから求められていくだろうなと思っていますので、それが両輪のようになっていくことが望ましいなと思っています。</p> <p>そのためには校長だけがやりますよではなく、教職員の意識の醸成が非常に必要になってきますので、パートナーシップ事業の調査にもありますとおり、校内研修は各学校で年1回以上やっているはずですので、そこでそれをさらに継続してもらいたいなと思っています。</p> <p>私どもの校長会としては、私、今、校長会のメインテーブルのほうのお仕事をさせてもらっているんですが、近々にアンケートを取って、校務分掌上こういう地域連携に関わることについて、どのような組織体制をつくっているのかというアンケート調査を進める予定です。簡単にまとめて言いますと、やはり管理職の方針の明確な提示と、それからマネジメント力が、コーディネーターさんの勤務状況をどうマネジメントしていくかということ、やはり職員が一員として、心を寄せていくということがとても大切だなと考えております。</p> <p>以上です。</p>
森泉委員長	今、教頭先生に集中しているわけです。担当職員より一般職員の忙しいとか。
河内委員	そうです。うちは今、担当者をつけましたし、県のほうは平成25年度に全県の小中学校に地域連携担当主任を置くようにという指示が出ていますが、新潟市はそこまでその時点ではそういう通知を出しませんでした。ただ今後、国のこれからの動きを見ますと、もう必要だろうなと思っています。
倉島委員	<p>ちょっと話がずれてしまうかもしれないんですけど、コーディネーターって定年もなければ年齢制限もなければっていう状態ですよ。若い方がなれるものではないのかなっていう。コーディネーターってどうやってなるんですかって聞かれたときに、私はたまたま地域の方から声掛けてもらって、折り紙できるよね、子どもと遊べるよね、今、仕事してないよね、はい、OKだったんです。そんな感じだったんです、私、ほんとに最初のときは。この学校で子どもの相手できるよね、子どもに折り紙折ってあげられるよねっていう、そんな感じで声を掛けられてっていう形だったんですが。</p> <p>結局例えばハローワークに求人が出るわけでもなく、大学に求人が出るわけでもなく、何かそういうものがないってことは、若い人が入ってくる余地がないのかなと思って、新採用みたいにならなくて学校卒業してきました、コーディネーターを仕事としてやりますっていう方は考えられないのかなと思って。</p> <p>実際、でも正直この勤務時間では生活が成り立たないので、この勤務時間で保育園に入れられなくてコーディネーター辞める方がいらっやいます。あと、離婚してシングルマザーになるので、これでは食っていけないから辞めますって言って辞めた方もおられます。ダブルワークでやってる方もおられます。</p> <p>だから、これを本当に仕事としてしっかりやるっていう方がいらっやらないけど、そういう体制にはなれないのかな、ならないのかなっていうのが、ちょっとやっぱり何かのときに話に出ることはあるんです。</p> <p>私たちこれでは生活できません。食べてもいけません。子どもも育てられません。これからどんどんお金がかかるのに、仕事やりがいがあるってすごくやりたいんだけど、これやってるとうち生活成り立たなくなるっていう。旦那さんが一生懸命働いてくれて、旦那さん、バンバン稼いでくれてっていうんだらまた話は別なんですけど、やっぱりそういう、ほんとに顔合わせた対応とか、いろんなことを、いっぱいやりたいことがあるんですけど、時間も手間もかかることがやっぱりどうしても多くて、そうすると、どうなのかな。すごくそこがぐるぐるし始めるんですよ。やっぱり自分としてももっとこれもやりたい、あれもやりたい、こうすれば良かったのに、ああすれば良かったのにならなくて、まだやっぱり6年、7年やっても思うこといっぱいあるので、失敗したなと思うときもあるし、ほんとに自分の休みを全部削ってまで行って、何とか覚えていただいて、仲良くなってっていうのを見てたり、自分も実際やったりしてると、これがほんとに仕事として、職業としてやっていけるような将来性はあるんでしょうか。</p>

	<p>それが最近やっぱり将来性とか、課題とかって言われたときに、私たちやっぱり全員不安になるし、ある日突然、パートナーシップ事業はもうやめますって言われたら、私たちは全員無職になってしまうので、さあ、どうするこの先っていうのも不安に思うところがあるので、ほんとに若い人とかじゃできない仕事なんでしょうか。いかがでしょう。そこら辺がちょっと最近。</p>
森泉委員長	<p>そうですね。第一には切なかったっていうことが出てくるわけで、とにかく地域に頼ってばっかしじゃダメだろうという話ですよ。これは連携というところの根底にはいつもあって、ウインウインの関係でやってかなげりや絶対長続きしないという、その辺りと関係してくる話なんじゃないかなと思って聞かせていただきました。いよいよしっかりと議論になるかなと思います。</p> <p>種村委員、いかがですか。</p>
種村委員	<p>最初に倉島さん言われたようにあれですけど、私、今、民生委員の方も探してるんです。民生委員の口がやっと1人見つかったんです。それはそれでいいですけども、あの方たちはほんとにボランティアというか、あれがないんですよ。活動費だけはいただける。コーディネーターは私はちょっといいなと思って今聞いたわけですけど、ほんとに民生委員の方たちはそういう現場に一生懸命やってくださって、また、地域の方とかそういう方を見守っていらっしゃる方、そういう方を見れば、コーディネーターの方は恵まれてるんだなと思います。</p> <p>それで、最初、私、コーディネーターになりますと、最初からの事業でしたんで、先生方まるっきりもう私らなんか無視された。無視っていうか、何だこういう人たちはっていう、そういうふうな印象を受けて1年目やってきました。2年目、3年目からはようやく、ああ、こういうもんだなと、上からまたそういうふう連絡が来て、連絡受けて指導が来て、職員の方もそういうふう考えているんだと。仕事をどんどん出してくれるように。けど、それが今はもうほんとに慣れっこになって、先生方は1週間前か、2、3日前でこんな人いないかって、そういう緊急な仕事がまた増えてるんですよ、今のコーディネーターの方は。</p> <p>もう少しそういった、計画性のあるっていいですか、前もって1か月前でもいいから、そういうふうにしてくれ、そのついでには、変更すればコーディネーターの方も伺えるでしょうけど、急な仕事も結構増えるような感じがします。</p> <p>だからいろんな要望とか、そういう仕事が多くなっているということもあると思いますし、時間数も足りないと思いますけども、あの人たち、どういったっていうか、そういうふう先生との連絡ももう少し密にして、密にしてっていうか、先生のほうも考えて、コーディネーターの方と協力してもらおうような格好になってもらえばありがたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
森泉委員長	<p>ありがとうございました。校務分掌とか、いろいろなキーワードが出てるんですが、脇野さん、どうですか。</p>
脇野委員	<p>学校支援課は教育活動全般、つまり事業、ほぼ学校事業がほとんどですし、学校行事も事業の一例なので、それを管轄してるパートなので、私どもとして申し訳ございませんっていう空気になってしまいうしか。</p> <p>井浦委員さんが話したように、やっぱり校長先生ですか、方針だとか、それはみんな意識しているわけでございます。もう今お話、委員からあったように、最初はそうでしたけど、今はほんとに、河内先生がおっしゃるように、ほんとに今、お願いしたまんま状態なわけです。それは増える一方だと思います。英語がまた学科にされれば、英語のできる人。何でもかんでも来るとしてるんですが、恐らくきっと違うんだろうと思ってますので、やはりもちろんどんどん指導してやれると思います。どこに重点を置くかという、学校がどこに重点を置くかと明確にしないと、もうお願いしっぱなしになるので、そこは私たちも考えていかなきゃいけないことの一つです。</p> <p>あと地域に貢献しているのかという、教育活動が、少し。もう1つは、コーディネーターの方にやりがいを感じる教育活動をしているのか。つまりそれはお願いしたところの事業がとても素晴らしければ、やって良かったと思うわけなんで、そういう事業をお願いしているかというのが、学校は問われていると私は思っています。</p> <p>自分が学校に勤めているときは、一応私どもで学校は教頭が担当窓口になっていたんで、何でもかんでもやらないとして、ほんとにそれ必要なかっていう、通してお願いするようにしたんです。そうしないとそれこそ何でもかんでもお願いですよ。おっしゃったように、1週間前になってやってたら無理なんだと私は思っているので、それは当然、校長、管理職がコントロールするのが当たり前と思うんで、そのような、すいません、うまく言えませんが、ちゃんと充実感を持てる、ということはその展開、質としてコントロールをちゃんとしているという学校の事例を今後も紹介していただいて、こういうふうにし</p>

	<p>なきやいけないんだというのは、やっぱり学校に報告書に載せたということが大事です。</p> <p>私たちも何か機会があれば、指導しなきゃいけないと思って聞いておりました。ありがとうございました。</p> <p>最後に、今、新規事業で今年度から学校支援課で、私が担当しておりますが、大好きにいがた事業ってやっております。これはお金が各30校で20万ぐらいかかるんです。出して、地域の良さを学ぶという、簡単に言うとそういう事業をやっております、それが地域に貢献できるようになるように、今、頑張ってる組んでおります。</p> <p>簡単に言うと、最後冊子にまとめまして、地域がいわゆる学区ですか、運営している学区で、こういういいところがあるというような宣伝パンフレットになるようなものを今考えておまして、それが一応自分たちの地域の良さを子どもたちが気付き、いい意味で宣伝していけるというのにつながるように今やっております、何とかその事業が存続して発展できるように、学校中お世話になってますので、いくことが、皆さんにも少し、若干ですが、貢献できるようにしていければなと思っています。</p> <p>まとめられなくて申し訳ないですが、私自身、頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。以上です。</p>
森泉委員長	三保委員、お願いします。
三保委員	<p>先ほど種村委員が言われたように、突然そこで言われるのは、それはつらいものがあるだろうと。私もある学校でボランティアをしているんですけど、年度の当初に言われるので、じゃあ、その時期にどういう準備をしようかなって考えるんで、そういうふうな連携重視ところは必要だと思いますが。</p> <p>それから3月に新潟市の社会教育委員会議で建議が出たんですけど、そのときに学校が地域の力を借りるだけじゃなくて、学校から地域に出ていくことも必要だよというのが、新たに入れられたものなんですけども、まだまだ学校のほうでは、コーディネーターというのは地域の力を学校にいただくっていう、そういう意識がまだ、第1段階としてはそれでいいんですけど、もう次に、今度は学校と地域をつなげるのがコーディネーターの役割なんだから、学校から地域に役立つところ、河内先生が言われたような、そういうことに発展していく段階に来てるんじゃないかなというふうに思いますので、そういうのを、できれば重点に据えていっていただければと思います。</p>
森泉委員長	藤井委員、お願いします。さらにありましたら。
藤井委員	<p>今日もいっぱいお話しさせてもらったもので、あれですけども、先ほど井浦委員のほうからの、管理職、特に校長次第によっては相当変わるんだとおっしゃった。案外とそう思います。そここのところは、しっかりとそれぞれの校長さんが理解していただけたらありがたいなと。</p> <p>ただ、コーディネーターもあんまり似たような感じで、コーディネーターを考えてる、何か地域からやるのは誰かいねかみたいなの、先ほどの計画性がないもの、突発的なものを平気で出したり、そういうのを防いでいかないと実施しないと思います。</p>
森泉委員長	ありがとうございました。田村委員、お願いします。
田村委員	<p>昨年から参加させていただきましても、毎回身の引き締まるというか、感じを受けています。特に今日は教職員課という立場から、教職員の理解はどうかっていう発言があったように、あるいは校長の考え方一つだろうという発言がありまして、かなりやっぱり意識の共有を図る動きがあります。現状を、新潟市内考えますと、ブランドデザインの確保ですけども、地域連携の理念の共有は100%ないというように見えます。</p> <p>ただ、やっぱり委員の方々から、温度差があつたりするというふうなご指摘もありますし、そういったところを踏まえて、今回、地域教育推進課のほうで7月に校長向けの研修会を開いております。非常に熱の入った、そして、厚みのある研修会だったなと私は思っています。</p> <p>そのベースにはやっぱり国の動向という意味で、自分たちが国よりも先んじてやっていくんだっていう自負と誇りと、そして、これから何をしなきゃならないんだということを踏まえた上での研修会だったなと思いますし、当然、そのベースには今度、市教委全体で地域教育推進課のやってることを柱に据えて研修会しなきゃ駄目だねっていうふうな、市教委全体の研修体制、考え方、ありました。これ研修推進委員会でも出たんですけども、そういった議論を踏まえて、今回7月に開いたということは、委員の方々にも評価をしていただきたいなと思っています。</p> <p>その研修改革を、10年たって根付いたものに、水をやり、肥料をやって、光が出るともう1回、ねじ巻き直すというふうな研修会だと思うんですが、これはやっぱりグラウンドを見ると、育てていきたいけれども、同時に多忙化解消されていければということが見えてきているのかなと思いました。先ほど、脇野委員のほうから重点化という話がありましたけれども、この辺につきましては、法もそうですし、コーディネーターの方々と一緒に、何に重点を置くかというのを一緒に出していくんだということは、今後考</p>

	<p>えていかなければいけないかなと思います。</p> <p>それが可能にする人はどこにいるんだというのは、やっぱりネットワークになってきますので、最後はやっぱりネットワークなのかかなと思いました。人のネットワーク、それは学校だけでなく、区というネットワークを生かしていくのがいいんじゃないのかなというふうなことを、思い描いて、思っていたんでございます。</p> <p>ネットワークと言いますと、新潟市教委の中でもネットワークをしっかりと作って、学校支援課、教職員課、地域教育推進課だけではなくて、教育総務課も入り、新潟市全体として、市教委としてネットワークをつくって、この事業を中核に進めていかなければならないんだなということを感じた会でありました。</p>
森泉委員長	<p>行政のほうからも、行政もきちっとネットワークをつくるんだ。あと、縦割りになりがちだということで、そうではないっていう、逆流するっていう新潟市の決意が聞けたような気がいたします。</p> <p>あえてまとめませんけれども、委員の皆さまからご意見いただいたということで、これで議事を終了したということにしたいと思っております。</p>
緒方指導主事	<p>大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。今年度、当課ではパートナーシップ事業、拡大から持続へということで、新しい10年を目指してこの事業を、根付いてきた事業をどういうふうに、子どもたちのために、地域のために、そして学校のために進めていければいいかということを探しているところです。</p> <p>大変たくさんのご意見をいただきました。またこれについて事務局として検討させていただいたり、そして、今後の事業の方向性の参考にさせていただきながら、また次回、ご報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それから、1点、大変申し訳ありません。修正、訂正をお願いいたします。先ほど新任コーディネーターとアドバイスコーディネーターの人数を報告したのですが、誤りがありましたので訂正をお願いいたします。</p> <p>新任コーディネーターですが、年度途中から入った者もおりまして、現在36名です。新任コーディネーター36です。それから、アドバイスコーディネーター12名でした。大変申し訳ありませんでした。訂正をお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
枝並補佐	<p>続きまして、次第の5、報告事項です。平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰についてご報告いたします。</p>
佐々木課長	<p>今ほどは熱心な意見交換、大変ありがとうございました。また今後、この意見を聞きながら、これからの方針を決めていかなければならないと考えています。</p> <p>この後ですけれども、平成28年度の「地域学校協働活動」推進に係る文科大臣表彰の選考を行いたいと思います。表題がちょっと変わっています。昨年度までは「優れた地域による学校支援活動推進に係る文化大臣表彰」だったんですけれども、推進プランが出たり、答申が出たりしましたので、ある意味学校の応援団作り、学校支援活動ばかりではなくて、地域全体で子どもたちを見ていったり、地域創生に係る活動がどれだけ行われたかという辺りで、選考していくということになります。</p> <p>毎年、この文科大臣表彰につきましては新潟市から2校を推薦を挙げておりまして、運営協議会の委員の中から選考委員をお願いしまして、選考に当たっていただきました。今年度につきましても、大変申し訳ないのですけれども、この表彰対象となり得る学校関係の方、また、地域の方を除いた委員に選考委員をお願いしたいと思っております。</p> <p>ですので、森泉委員長、田村委員、それから三保委員、脇野委員、本日ご出席のこの4名から選考委員になっていただきまして、これから選考していきたいと思っております。</p> <p>どうぞご理解とご協力をお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
枝並補佐	<p>以上をもちまして、平成28年度第1回地域と学校パートナーシップ事業運営協議会を終了いたします。本日は暑い中、またご多用の中、ご参加いただきまして、大変ありがとうございました。</p> <p>それでは、すぐに選考委員会のほうを行いますので、ただ今の選考委員の方はそのままお待ちいただきたいと思います。</p>